

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100147		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	宮崎県宮崎市新別府町前浜1401-259		
自己評価作成日	平成27年11月20日	評価結果市町村受理日	平成28年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kanistrue&jigyosyoCd=4590100147-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成27年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは市街地郊外の静かな一角に位置し、グループホーム目的で建設された機能的で安全重視の家庭的な雰囲気の家屋である。大型ショッピングセンターや神社・喫茶店等が近くにあり、市民の憩いの場である森林公園が散歩コースにもなっている。同敷地内に有料老人ホーム、道路を挟んでグループホーム2番館を建設しており、利用者様同士の交流もある。職員は経験豊富で、理念に沿ったケアを提供することができるよう日々努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームとして人材育成に力を入れ、介護支援専門員や介護福祉士の資格取得を目指した受験対策講座を設けている。問題集の購入などもホームで行い、受験者の費用負担を軽減している。周辺には民家がほとんどないが、夏祭りに力を入れており、歌やダンス、コーラス、出店などの多彩なプログラムを組み、毎年150名ほどの参加を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り後に職員で唱和し、実践している。支援する中で実践できていないときは、職員を通し、声の掛け合いを行っている	法人としての理念はあるが、現在のところまだホーム独自の理念を作成するまでには至っていない。	地域密着型サービスを提供するホームとして全職員で話し合いをもち、誰もが理解しやすい理念を作成することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入していて、回覧板等で地域の情報を得られているが、最近では近所の方々も昼間就業していたり、施設に通ったりと不在がちで、なかなか直に顔を合わせる機会が少なくなっている	周辺に民家がほとんどないため、自治会に加入はしているものの、地域との交流を図ることは厳しい状況にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で地域貢献の話が出ているが、未だ具体的に出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、地域包括支援センターの職員、福祉協力員の出席で意見交換を行い、利用者様のケアに生かすことができるようにしている。家族に参加の呼びかけをしているが、なかなか今年度は参加ができていない	外部の委員3名と家族、職員で構成しているが、開催日の関係で家族の参加が困難となっており、今後の検討課題である。近隣との交流が少ないなか、会議は貴重な意見や情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの担当者に出席していただき、市からの情報を頂いている。市の担当者との連携は上司を通して行っている	管理者が、直接、市町村の担当者と連絡を取ることはないが、上司を通して連携を図るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しないケアを基本とし、職員も研修会に参加したり、施設内の勉強会で正しく理解している。玄関の施錠は曜日と時間を決めて開錠していたが、現在は外に出たい願望の強い人がいるので、職員による開閉を行っている	拘束の是非について研修を受け、理解している。ホームのすぐそばの道路は交通量が多く、死角になる部分もあるため、やむを得ず施錠している。外出願望の強い人は、散歩に連れ出したり、言葉かけなどで対応している。	完全施錠から一部でも開錠することを目標に、全職員で十分な協議と検討を重ねることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加、毎月の勉強会で虐待についての話し合いを行い、正しい理解と防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の全体研修で「法令遵守について」という課題で発表を行った。権利擁護の制度について具体的な動きはないが、少し職員の意識が変化したと感じている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項の説明を行い、納得して頂いてから契約書を取り交わしている。2部作成し、家族と施設で1部ずつ保管している。また、解約時には家族と今後の事を十分検討している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置している。家族の面会時やケアプラン検討会時、また、年間行事の中の夏祭りや敬老会、クリスマス会に家族の参加をいただき、要望・意見を聞く機会を設けている	家族の来訪時に利用者を交えて意見や要望を聞く機会を設けている。また、ホームの行事の後に家族が集まり意見交換をするが、その場にも同席して意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時に話を聞き、意見提案等は連絡ノートに記入し、職員全体を把握できるようにしている。また、毎月の介護会議で意見交換をし、話し合った結果を月一回の管理者会議で報告し、指示を仰いでいる	日頃は連絡ノートで意見を把握している。毎月の介護会議では活発に意見交換がなされ、提案された意見を協議し、ケアにつなげるようにしている。年に1回は上司による個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は週2～3回は施設に来られ、管理者や職員の要望、意見を聞き、現状を把握して貰っている。年間行事の中で介護支援専門員と介護福祉士の試験対策講座を設けてくれ、職員のスキルアップに努めてもらっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会に参加し、勉強会等に職員が参加できる体制を作っている。外部研修での報告の内容は、職員全員が把握できるよう、月1回の勉強会で発表している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会に参加し、同業者との意見交換・交流を行っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から得られる情報・家族の思いを初回面談から受け止め、安心して生活がスタートできるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていることを聞き、家族の思いを受け止め、要望を聞きながら安心してサービスが開始できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望・ご本人の情報をくみ取り、アセスメントをしっかりと行い、サービス担当者会議で話し合いをしっかりと行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、利用者と共に過ごしていく関係を大事にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・サービス担当者会議の際に本人の状況を説明し、緊急の場合は電話で報告しながら、本人を支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や知人の面会には快く対応し、本人とゆっくり会話できるような状況を作っている。また、電話での会話もできる環境を整えており、スタッフ全員で対応を万全にしている	いつでも来訪が可能な体制を整えている。帰宅願望の強い利用者には、自宅近くをドライブするなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性を大事にしながら、心身の状況を把握して、全員で支えあえるような関係づくりを支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や家族の方からの相談は、随時対応している。入院された場合にはお見舞いに行き、状況を把握できるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との関わりの中で昔話をしたり、若いころの仕事や趣味の話をして、利用者本位のその人らしい生活が引き出せるようにしている	入居時に比べ、介護度が進行し、意思や思いを表出できる利用者が少なくなっているが、表情や態度から、利用者の思いをくみ取よう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方を継続して支援していくために、家族からの聞き取り・本人の状況を把握できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「出来ること」「出来ないこと」を把握し、出来ることが維持できるように、現状維持が出来るように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態、生活の様子を毎日の記録や職員から聞き取り、家族、担当職員、作成者で話し合いながら介護計画を作成している	日々の記録や担当者及び家族の意見を参考にしながら、ケアプランを作成している。そのプランは介護支援専門員を中心に、全職員が共有、理解し、ケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や日々の記録・ケース記録・バイタルチェック・食事・排泄の情報を共有して、サービスの見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況確認、家族との面談を行いながら、その時々ニーズを見出し、サービスの提供に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会・クリスマス会等にボランティアの方による歌や踊りを披露して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は済陽クリニック、下村医院、影山内科の3医院で、2週間に1回の割合で往診していただき、家族へ状況報告を行っている。訪看との連携体制を24時間行っている	かかりつけ医を希望する利用者はその意志を尊重して、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ事業所の看護師に相談したり、訪問看護師との連携を図り、利用者の健康管理を支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入・退院の際は、情報提供書にて情報の提供を行い、安心して過ごせるように支援している。随時、病状確認を行い、退院後のケアについても相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と主治医との連携で重度化、看取りについての対応を行っている。現在看取りについて具体的に聞かれているのは3名様である。早い段階で他の利用者様の対応も考えていこうと思っている。1月に看取りについての研修会があるので、職員の参加希望を募っている	今年度、終末期指針を作成したが、家族、主治医、訪問看護ステーション、ホームとの具体的な協議がまだ不十分である。しかし、看取りの研修会に職員が参加する機会を設けるなど、前向きに取り組むよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット等を書くことで、利用者の変化に気づくことができ、そのことを職員全員が周知徹底することで対策につなげている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自事業所3施設合同の消火訓練、避難訓練を行っていて、つい先日、今年2回目の訓練を終えたばかりである。地域との訓練は、今年度はまだ実現できていない状況である	夜間想定のマニュアルを作成したが、実践はまだ昼間のみである。系列事業所の協力は得ているが、地域を巻きこんでの訓練には至っていない。	マニュアルに沿った夜間を含む訓練とそこで得た課題を分析し、課題解決に向けて取り組むことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「一人の人間として尊敬、尊重し支援していく」という経営理念に沿って、職員は日々努力をしている。利用者様へのプライドを傷つけない声掛けや行動をよく考えながら、支援を行っている	経営理念を毎朝唱和することで、ケアの目標を再確認している。なれ合いによる言葉かけや態度とならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方が自分の思いを気兼ねなく表出できるような雰囲気づくりをし、一人ひとりにあった説明・声掛けを行い、自己決定を尊重している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭の延長・継続というホームの方針で、一人ひとりの状況に合わせ、その日・その時の希望に沿った過ごし方を支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回、理・美容の業者の方の訪問がある。利用者のご希望・要望により行っている。整髪・ひげそりは声掛けにより、自分で行えるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に準備や食事、後片付けが出来るようにとの思いで始まったホーム内での調理だが、当初の思いは実現できず、現在職員のみでの調理を行っている	介護度の進行によって、現在は利用者と共に食事を楽しむという状況は困難となっているが、利用者が完食できる量や栄養バランスを考慮した食事を提供しよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作っているため、専門的な食事は作れない。病気のために指示食が必要であれば、有料の施設の給食をお願いしている。献立は担当職員が考え、主菜は肉と魚を交互に提供する支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・うがいを行い、口腔ケアに気を付けている。自分でできる方には声掛けを行い、義歯の方は夜間帯は洗浄剤を使用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の排泄パターンを把握し、意思表示できない利用者様には声掛けをし、定時のトイレ誘導を行っている。失禁が少なくなるよう、トイレでの排泄を心がけている	全員紙パンツを使用しているが、日中はトイレ誘導を行い、失敗の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に便秘の日数を書き込み、各個人に合った排泄パターンから、服薬・運動・水分を考えた支援を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、決まった日に、午前中に施行している。汚染時や決まった時に入浴しなかった利用者様には、状況に応じて柔軟な対応を行っている	週2回の入浴を行っている。入浴を拒む場合は、順番を入れ替えるなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの生活パターンに合った支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に対して、職員全員が目的・容量・副作用について共通理解をし、服薬支援を行っている。主治医との連携を図り、確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみ・気分転換が出来るように、本人の状態に合わせて支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くには神社、公園、ショッピングセンターがあり、本人の希望や職員が声掛けして散歩している。また、家族の面会時に一緒に散歩に出かけられるよう声掛けし、お願いする環境も作っている	外出は全員車椅子を利用している。近くの商業施設のペットコーナーや神社周辺など、利用者の希望に沿って散歩に出向くようにしている。コスモスや桜の季節には全員で出掛けようとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かったお金は職員が管理している。外出の際、本人の希望により使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って行えるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は天井が高く、広々として日当たりもよい。大きな窓からは大型ショッピングセンターやレストランが見え、行きかう人、車の往来、川や施設の庭が見え、景色がよい。ゆったりと過ごせるようにソファが置かれ、ゆっくりくつろげる雰囲気である	室内で過ごす時間が長いと、花壇の花や屋内の飾りつけで四季の移ろいを感じてもらおう工夫している。また、手作りの日めくりカレンダーで月日、曜日が確認できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考え、多人数のグループにならないように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれがタンス、テレビ、椅子、人形など、馴染みのものをもちこみ、ご本人に合わせた居室作りがなされて心地よく過ごせるよう工夫している	居室に持ちこむ物や活用の仕方は、家族と利用者に基本的に任せている。ホームは室内の清掃を行い、利用者が心地よく安全に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで事務室と共用スペースを中心に居室が配置されている。廊下には手すりがあり、共用トイレが3か所設置されていて、自立されている方は遠いトイレを使用し、介助が必要な方は近いトイレを使用している		